

# 基礎科目



科目名	教養研究 A	開講時期	4年 前期
担当教員	岩本 勇	単位数	2
テーマ	マーケティング視点による業界研究		
授業の概要と目的	<p>卒業年次に達した 4 年生に対して、現実社会で展開される様々な事業戦略を説得的に表明(プレゼンテーション、レポート等)する技能と学力を養う演習科目である。</p> <p>受講生は興味・関心のある特定分野の研究課題を設定し、その課題に関してマーケティング思考に則った専門的な分析研究を行う。そこでマーケティングの専門的な分析能力の指導と更なる能力向上へ向けたアドバイスを行っていく。</p> <p>本授業の特徴は、受講生自らの卒業後の進路に対応した研究課題を設定することによって、就職活動に直結する演習活動を目指す点にある。特にこれからの福祉業界、医療業界においては、より一層のマーケティング知識が求められており、これらの知識を学生時代に身につけることは、業界貢献への有効な道筋となろう。</p> <p>履修前と後では、明らかに就職活動への自信が身につくことを目標とする。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 マーケティング思考</li> <li>3 研究課題の設定</li> <li>4 研究業界の歴史の変遷</li> <li>5 業界成長の研究</li> <li>6 競合分析</li> <li>7 商圏分析</li> <li>8 顧客分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 研究対象事業所の市場地位</li> <li>10 研究対象事業所のターゲット</li> <li>11 研究対象事業所のサービス</li> <li>12 研究対象事業所の戦略構造</li> <li>13 研究対象事業所の将来の方向</li> <li>14 貢献領域の設計</li> <li>15 授業の総括</li> </ul>	
テキスト	フィリップコトラー著 『コトラーの戦略的マーケティング—いかに市場を創造し、攻略し、支配するか』 ダイヤモンド社 (2000/02)		
参考文献	講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	授業に対する積極性、授業の理解度、学期末のレポートの内容で評価する。[配点 30 : 30 : 40]		
質問・相談の受付方法	月曜を除く時間帯に研究室 (研究室棟 203 号) にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける (iwamoto@suw.ac.jp)		
履修要件	特に設けない (教養講読 A・B を履修した者が望ましい)		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】		
その他	事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。		

科目名	教養研究 A	開講時期	4年 前期
担当教員	岡澤 裕子	単位数	2
テーマ	自然と科学		
授業の概要と目的	これまでに学んできた知識を集大成し、一つの研究テーマに取り組む。単に文献を講読して知識を習得することから一歩進んで、「自分で問題を発見し、その解決法を見だし、実際にその効果を確認する」ためのスキルや方法を学ぶ。		
授業計画	1. ガイダンス 2. ～3. テーマと方針の決定 4. ～14. 文献講読 調査、実験 レポート製作 15. 授業の総括		
テキスト	第2回の講義で決定する。		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する積極性と学期末のレポートの内容で評価する。[配点 30 : 70]		
質問・相談の受付方法	okazawa@suw.ac.jp 宛にて、随時受け付ける。		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	教養研究 A	開講時期	4 年前期																
担当教員	小田部雄次	単位数	2																
テーマ	富士山の謎と奇談を学びながら、郷土の歴史や文化を考える																		
授業の概要と目的	テキスト『富士山の謎と奇談』を読みながら、自分たちの知っている知識を紹介しあい、郷土への新たな視野を広げてみる。																		
授業計画	<p>テキストを読みながら、プリントを解いていく。テキストの目次は以下の通りであり、原則として一章に一時間を費やす予定だが、頁数に過多があるので、適宜、修正をすることもある。なお、最後に自分で富士山についての自分で研究して報告書をまとめる。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 富士山の謎と奇談①</td> <td>2 富士山の謎と奇談②</td> </tr> <tr> <td>3 富士山の謎と奇談③</td> <td>4 富士山の謎と奇談④</td> </tr> <tr> <td>5 富士山の謎と奇談⑤</td> <td>6 富士山信仰のあれこれ①</td> </tr> <tr> <td>7 富士山信仰のあれこれ②</td> <td>8 富士山信仰のあれこれ③</td> </tr> <tr> <td>9 富士山信仰のあれこれ④</td> <td>10 富士山信仰のあれこれ⑤</td> </tr> <tr> <td>11 溶岩洞穴の怪①</td> <td>12 溶岩洞穴の怪②</td> </tr> <tr> <td>13 溶岩洞穴の怪③</td> <td>14 富士山についての自己研究①</td> </tr> <tr> <td>15 富士山についての自己研究②</td> <td></td> </tr> </table>			1 富士山の謎と奇談①	2 富士山の謎と奇談②	3 富士山の謎と奇談③	4 富士山の謎と奇談④	5 富士山の謎と奇談⑤	6 富士山信仰のあれこれ①	7 富士山信仰のあれこれ②	8 富士山信仰のあれこれ③	9 富士山信仰のあれこれ④	10 富士山信仰のあれこれ⑤	11 溶岩洞穴の怪①	12 溶岩洞穴の怪②	13 溶岩洞穴の怪③	14 富士山についての自己研究①	15 富士山についての自己研究②	
1 富士山の謎と奇談①	2 富士山の謎と奇談②																		
3 富士山の謎と奇談③	4 富士山の謎と奇談④																		
5 富士山の謎と奇談⑤	6 富士山信仰のあれこれ①																		
7 富士山信仰のあれこれ②	8 富士山信仰のあれこれ③																		
9 富士山信仰のあれこれ④	10 富士山信仰のあれこれ⑤																		
11 溶岩洞穴の怪①	12 溶岩洞穴の怪②																		
13 溶岩洞穴の怪③	14 富士山についての自己研究①																		
15 富士山についての自己研究②																			
テキスト	遠藤秀男『富士山の謎と奇談』静新新書																		
参考文献	講義内で適宜紹介する。																		
成績評価の基準・方法	出席してまとめプリントをきちんとすべて書けば 3 点、宿題プリントもきちんと書いて提出すれば 1 点を与える。まとめプリントは 15 回分で 45 点、宿題プリントは 15 回分で 15 点。あとの 40 点は、研究報告書の内容で加算する。																		
質問・相談の受付方法	講義と会議以外はおおむね研究室にいるので、質問や相談内容を明確にして、いつでもおたずねください。																		
履修要件	特になし。																		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】																		
その他	受講には 4 つのルールがあります。1 私語をしない。2 携帯はオフ。3 遅刻は恥ずかしそうに。4 居眠りは外で。これを守れない方は適宜減点しますので、成績が不可となる場合もあります。																		

科目名	教養研究 A	開講時期	4年 前期
担当教員	角谷 裕子	単位数	2
テーマ	英語講読、コミュニケーション、異文化間コミュニケーション、文化人類学		
授業の概要と目的	上記のテーマに沿った文献に対する意見を論理的・批判的に整理し、プレゼンテーションやレポート等のための技能と学力を養うことを目差します。本クラスでは、コミュニケーション、特に異文化間コミュニケーションに関するより発展的な文献を提示し、個々の受講生の関心と知識を増進させることにより、上記の目的の達成を図ります。		
授業計画	<p>1. イントロダクション</p> <p>2・3 テーマ・文献の提示 文献選択・分担決定</p> <p>4～14 担当文献の内容報告・発表 ディスカッション</p> <p>15. まとめ</p>		
テキスト	授業内で紹介する。		
参考文献	必要に応じ、授業で紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する積極性、テーマに関する理解度、研究発表・小論の内容で評価する。 [配点 30 : 30 : 40]		
質問・相談の受付方法	授業後、あるいは研究室（介護福祉棟 308 号室）で対応する。時間は初回授業で提示する。		
履修要件	「教養講読 A・B」を履修済みであることが望ましいが、自由に選択・履修して構わない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生 【可】 聴講生 【可】		
その他	積極的な授業参加と姿勢を期待する。		

科目名	教養研究 A	開講時期	4年 前期
担当教員	戸田裕司	単位数	2
テーマ	中国的思考を知る－『論語』を体験する		
授業の概要と目的	<p>上記テーマに沿って選ばれたテキストを読み、文章を正確に理解するだけでなく、自分の意見を対置して説明する技術と能力を身につける。</p> <p>日本語訳で『論語』を読み、みんなで議論することを通して、中国的思考というものを考えるきっかけにしようと思う。もちろん、ただ一つの「中国的思考」というものがあるわけではない。それは日本人の思考がひとくくりに出来ないのと同じである。しかし、『論語』という書物が中国の伝統的なものの考え方の軸となってきたことは確かである。</p> <p>日本文化にも多大な影響を与えたこの本を、卒業までに一度は体験してみよう。</p>		
授業計画	下記の予定であるが、受講生の興味関心によっては、皆の合意を得た上で、異なるメニューを入れる場合がある。		
	1	授業趣旨説明 テキスト紹介 報告分担の相談	
	2	予備講義：「孔子と『論語』」	
	3～14	テキスト講読 ○ 報告者が担当部分についての疑問や所感を発表する。 ○ それをもとに参加者全員でディスカッションする。 ○ 担当教員が補足講義を行う場合がある。	
	15	まとめの討論	
※ 毎回レスポンス・カード(あるいはそれに代わるもの)の記入・提出を求める。			
テキスト	<p>自分の家に『論語』の訳本があれば、それを持参する。(新たに購入する必要はない。)</p> <p>* もし家に無ければ、貝塚茂樹・訳『論語 I』(中央公論新社[中公クラシックス]、2002年、1628円)をおすすめするが、第1回の授業で相談してから購入してもよい。</p>		
参考文献	演習中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	① 授業に対する積極性 [30%] ② テキストに関する理解度 [30%] ③ 学期末のレポートの内容 [40%]		
質問・相談の受付方法	① 質問は演習の議論の中で積極的に提起してほしい。 ② その他、オフィス・アワー等に研究室(研究室棟 103号室)でも受け付ける。		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	日本語訳で読むので漢文読解力は不要であるが、初めて見る漢語表現をおもしろがる好奇心は要る。		

科目名	教養研究A	開講時期	4年 前期
担当教員	牧野 茂	単位数	2
テーマ	日本文学研究		
授業の概要と目的	<p>[概要]</p> <p>日本文学に関する研究テーマを個別に設定し、自分の力で研究を成し遂げる。</p> <p>「日本語表現法」「文学」「教養講読⑥」を受講して、文学と日本語に対して興味を持っている諸君、文学作品を読む訓練の出来ている諸君が受講することが一番望ましい。しかし、これまでに文学作品を読んで心を動かされた経験がある諸君であれば、受講可能である。ただし、その場合には、開講日より前に、担当教員に相談をしてほしい。研究計画が決まっていない諸君、教養研究を安易に考えている諸君は、お断りする場合もある。</p> <p>研究のための資料をすぐに提供することが出来る、すぐにアドバイスをすることが出来るという点では、明治浪漫主義文学に関心を持っている諸君が受講することが一番望ましい。好きな作家、または、好きな作品をすでに自分で持っている諸君であれば、作家論、または、作品論にすぐに取り掛かることが出来るはずである。しかし、日本文学、日本文化、日本語の研究であれば、どの分野であってもアドバイスをすることは出来るので、担当教員に相談をしてほしい。</p> <p>また、大学院、他大学の国文学科への進学希望者がいる場合には、個別に指導をおこなう。</p> <p>[目的]</p> <p>各自の関心のあるテーマについて、半年間、または、一年間の研究計画を立てて、締め切り期日までに卒業研究をまとめ上げる。</p>		
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <p>2～4 研究テーマを決定する</p> <p>5～14 研究の進捗状況を報告する 個別に研究を進める</p> <p>15 レポート提出</p>		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	学期末に提出するレポートの内容（80パーセント）と出席点（20パーセント）で評価する。欠席多数の場合は、レポート提出を認めない。		
質問・相談の受付方法	講義開始前と講義終了後、講義内容、及び、研究方法、論文・レポートの書き方、文学、日本文化、日本語に関する質問・相談に応じる。		
履修要件	「日本語表現法」か「文学」か「教養講読⑥」を履修済みであることが望ましい。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	私語、遅刻等、人に迷惑を掛ける諸君の受講は認めない。		

科目名	教養研究A	開講時期	4年 前期
担当教員	向山 守	単位数	2
テーマ	村上春樹とともに読む		
授業の概要と目的	<p>村上春樹の作品は、たぶん、日本文学という枠組みからはみ出してしまっている。日本ではない国で、むしろ、熱心に読まれているように思える。</p> <p>そんな村上春樹は、あまり人前にはでないし、インタビューも受けないが（作者が作品について語ることによって、読者に干渉しないためだ）、作家としてのキャリアを数十年もつめば、インタビューもたまり、昨年、インタビュー集が出た。そのインタビュー集を読みながら、実際の文学作品を読み、これから文学がどのようなようになっていくのか、考えてみたい。</p>		
授業計画	<p>1. イントロダクション</p> <p>2.～14. テキストを読みながら、理解を深め、その理解に基づき、作品に関するコメントをそれぞれしてもらおう。そのコメントをもとに、ディスカッションを行う。</p> <p>15. まとめのディスカッション</p>		
テキスト	『夢を見るために毎朝僕は目覚めるのです』文藝春秋 1800円		
参考文献	随時紹介する。		
成績評価の基準・方法	出席＋レポート 出席（60%）、レポート（40%）		
質問・相談の受付方法	研究室棟 301 向山研究室まで。		
履修要件	とくにないが、作品と批評（のようなもの）の両方を読むので、それなりの読書量が要求される。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	教養研究 B	開講時期	4年 後期
担当教員	岩本 勇	単位数	2
テーマ	卒業後の進路のマーケティング研究		
授業の概要と目的	<p>前期「教養研究 A」同様、卒業年次に達した 4 年生に対して、現実社会で展開される様々な事業戦略を説得的に表明(プレゼンテーション、レポート等)する技能と学力を養う演習科目である。</p> <p>受講生は、卒業後の進路に対応した研究課題を設定し、その課題に関するマーケティング研究とプレゼンテーション演習を行う。そのほかビデオによる異業種のマーケティング研究を行う。受講生同士の情報交換や発表を通じて、また様々な業界情報の吸収と理解、その応用に努めていく。</p> <p>本授業の特徴は、それぞれの受講生が卒業後の進路に対応した、より実践的な研究活動を展開する点であろう。卒業した後に有効な演習を目標に設定している。</p>		
授業計画	1 ガイダンス 2 進路のマーケティング研究① 3 進路のマーケティング研究② 4 プレゼンテーションと意見交換① 5 プレゼンテーションと意見交換② 6 プレゼンテーションと意見交換③ 7 ビデオ学習① 8 対象業界への応用	9 ビデオ学習② 10 対象業界への応用 11 ビデオ学習③ 12 対象業界への応用 13 ビデオ学習④ 14 対象業界への応用 15 授業の総括	
テキスト	フィリップコトラー著 『コトラーの戦略的マーケティング—いかに市場を創造し、攻略し、支配するか』 ダイヤモンド社 (2000/02)		
参考文献	講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	授業に対する積極性、授業の理解度、学期末のレポートの内容で評価する。[配点 30 : 30 : 40]		
質問・相談の受付方法	月曜を除く時間帯に研究室(研究室棟 203 号)にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける (iwamoto@suw.ac.jp)		
履修要件	特に設けない(教養講読 A・B、教養研究 A を履修した者が望ましい)		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。		

科目名	教養研究 B	開講時期	4年 後期
担当教員	岡澤 裕子	単位数	2
テーマ	自然と科学		
授業の概要と目的	<p>教養研究 A に引き続き、一つの研究テーマに取り組む。          自分で問題を発見し、その解決法を見だし、実際にその効果を確認して得られた成果を論文にまとめあげていく。</p>		
授業計画	<p>1. ガイダンス          2. テーマと方針の決定          3. ～15.          文献講読          調査、実験          論文製作          研究発表</p>		
テキスト	指定しない。		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	製作した研究論文の内容で評価する。		
質問・相談の受付方法	okazawa@suw.ac.jp 宛にて、随時受け付ける。		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	教養研究 B	開講時期	4年後期
担当教員	小田部雄次	単位数	2
テーマ	大正時代の身の上相談とその回答から、現代の問題を再考する		
授業の概要と目的	テキスト『大正時代の身の上相談』を読み、自分たちの価値観との異動を考えながら、現代社会に対する自分なりの視野を広げてみる。		
授業計画	<p>テキストを読みながら、プリントを解いていく。テキストの目次は以下の通りであり、原則として一章に一時間を費やす予定だが、頁数に過多があるので、適宜、修正をすることもある。なお、最後に自分で「大正時代の身の上相談」について報告書をまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「清く正しき乙女の困惑」ほか</li> <li>2 「そろそろお年頃の憂鬱」ほか</li> <li>3 「進路を決めるにあたっての混迷」ほか</li> <li>4 「縁談、結婚に関する逡巡」ほか</li> <li>5 「結婚しないかもしれない女の問題」ほか</li> <li>6 「困った夫に対する妻の閉口」ほか</li> <li>7 「妻に手こずる夫の煩悶」ほか</li> <li>8 「昔の恋人に揺れ動く心」ほか</li> <li>9 「結婚生活の危機に際しての苦悩」ほか</li> <li>10 「“バツイチ”の戸惑い」ほか</li> <li>11 「道ならぬ恋の悶え」ほか</li> <li>12 「仕事、職場にまつわる問題」ほか</li> <li>13 「性格についての思惑」ほか</li> <li>14 大正時代の身の上相談のまとめ①</li> <li>15 大正時代の身の上相談のまとめ②</li> </ol>		
テキスト	カタログハウス編『大正時代の身の上相談』ちくま文庫		
参考文献	講義内で適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	出席してまとめプリントをきちんとすべて書けば 3 点、宿題プリントもきちんと書いて提出すれば 1 点を与える。まとめプリントは 15 回分で 45 点、宿題プリントは 15 回分で 15 点。あとの 40 点は、研究報告書の内容で加算する。		
質問・相談の受付方法	講義と会議以外はおおむね研究室にいますので、質問や相談内容を明確にして、いつでもおたずねください。		
履修要件	特になし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	受講には 4 つのルールがあります。1 私語をしない。2 携帯はオフ。3 遅刻は恥ずかしそうに。4 居眠りは外で。これを守れない方は適宜減点しますので、成績が不可となる場合もあります。		

科目名	教養研究 B	開講時期	4年 後期
担当教員	角谷 裕子	単位数	2
テーマ	英語講読、コミュニケーション、異文化間コミュニケーション、文化人類学		
授業の概要と目的	上記のテーマに沿った文献の批判的見解、文献のあるいは著者の論理に対する批判的理解を、論理的に構成し表明することを目指します。本クラスでは、コミュニケーション、特に異文化間コミュニケーション、に関する個々の受講生の特定テーマに即した文献を提示し、受講生の総合的な力を促すことにより、上記の目的の達成を図ります。		
授業計画	<p>1. イントロダクション</p> <p>2・3 各自の研究テーマの選択</p> <p>4～13 文献講読・報告・話し合い テーマに沿って小論文・発表資料作成</p> <p>14・15 各自テーマに関する発表</p>		
テキスト	授業内で紹介する。		
参考文献	必要に応じ、授業で紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する積極性、テーマに関する理解度、研究発表・小論の内容で評価する。 [配点 30 : 30 : 40]		
質問・相談の受付方法	授業後、あるいは研究室（介護福祉棟 308 号室）で対応する。時間は初回授業で提示する。		
履修要件	「教養研究 A」を履修済みであることが望ましいが、自由に選択・履修して構わない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な授業参加と姿勢を期待する。		

科目名	教養研究 B	開講時期	4年 後期								
担当教員	戸田裕司	単位数	2								
テーマ	中国的思考に学ぶ—『論語』を疑う										
授業の概要と目的	<p>上記テーマに沿って選ばれたテキストを読み、文章を正確に理解するだけでなく、自分の意見を対置し、説明する技術と能力を身につける。</p> <p>前期科目「教養研究 A」に引き続いて、日本語訳で『論語』を読み、みんなで議論する。後期は『論語』を体験するだけでなく、時には疑ってみよう。偉大な古典だからといって、全て正しいと思込む必要はない。むしろ、現代日本で生きる私たちにとって違和感のあるところに、より深い理解の入口があるのかも知れない。</p>										
授業計画	<p>下記の予定であるが、受講生の興味関心によっては、皆の合意を得た上で、異なるメニューを入れる場合がある。</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>授業趣旨説明 テキスト紹介 報告分担の相談</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>予備講義：『論語』解説</td> </tr> <tr> <td>3~14</td> <td>           テキスト講読            ○ 報告者が担当部分についての疑問や所感を発表する。            ○ それをもとに参加者全員でディスカッションする。            ○ 担当教員が補足講義を行う場合がある。         </td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめの討論</td> </tr> </table> <p>※ 毎回レスポンス・カード(あるいはそれに代わるもの)の記入・提出を求める。</p>			1	授業趣旨説明 テキスト紹介 報告分担の相談	2	予備講義：『論語』解説	3~14	テキスト講読 ○ 報告者が担当部分についての疑問や所感を発表する。 ○ それをもとに参加者全員でディスカッションする。 ○ 担当教員が補足講義を行う場合がある。	15	まとめの討論
1	授業趣旨説明 テキスト紹介 報告分担の相談										
2	予備講義：『論語』解説										
3~14	テキスト講読 ○ 報告者が担当部分についての疑問や所感を発表する。 ○ それをもとに参加者全員でディスカッションする。 ○ 担当教員が補足講義を行う場合がある。										
15	まとめの討論										
テキスト	<p>自分の家に『論語』の訳本があれば、それを持参する。(新たに購入する必要はない。)</p> <p>* もし家に無ければ、貝塚茂樹・訳『論語Ⅱ』(中央公論新社[中公クラシックス]、2003年、1523円)をおすすめするが、第1回の授業で相談してから購入してもよい。</p>										
参考文献	演習中適宜紹介する。										
成績評価の基準・方法	① 授業に対する積極性 [30%] ② テキストに関する理解度 [30%] ③ 学期末のレポートの内容 [40%]										
質問・相談の受付方法	① 質問は演習の議論の中で積極的に提起してほしい。 ② その他、オフィス・アワー等に研究室(研究室棟 103号室)でも受け付ける。										
履修要件	特に設けない										
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】										
その他	日本語訳で読むので漢文読解力は不要であるが、初めて見る漢語表現をおもしろがる好奇心は要る。										

科目名	教養研究B	開講時期	4年 後期
担当教員	牧野 茂	単位数	2
テーマ	日本文学研究		
授業の概要と目的	<p>[概要]</p> <p>日本文学に関する研究テーマを個別に設定し、自分の力で研究を成し遂げる。</p> <p>「日本語表現法」「文学」「教養講読⑥」を受講して、さらに、同じ教員の「教養研究A」を受講した諸君が、「教養研究B」を受講することが一番望ましい。文学作品を読む訓練が十分に出来ているからである。しかし、これまでに文学作品を読んで心を動かされた経験がある諸君であれば、受講可能である。ただし、その場合には、開講日より前に、担当教員に相談をしてほしい。研究計画が決まっていない諸君、教養研究を安易に考えている諸君は、お断りする場合もある。</p> <p>研究のための資料をすぐに提供することが出来る、すぐにアドバイスをすることが出来るという点では、明治浪漫主義文学に関心を持っている諸君が受講することが一番望ましい。好きな作家、または、好きな作品をすでに自分で持っている諸君であれば、作家論、または、作品論にすぐに取り掛かることが出来るはずである。しかし、日本文学、日本文化、日本語の研究であれば、どの分野であってもアドバイスをすることは出来るので、担当教員に相談をしてほしい。</p> <p>前期に「教養研究A」を受講した諸君が、引き続き、同じ教員の「教養研究B」を受講し、二つのレポートを提出した上で、さらにそれら一つにまとめて、卒業論文として完成することが一番望ましい。また、大学院、他大学の国文学科への進学希望者がいる場合には、個別に指導をおこなう。</p> <p>[目的]</p> <p>各自の関心のあるテーマについて、半年間の研究計画を立てて、締め切り期日までに卒業研究をまとめ上げる。</p>		
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <p>2～4 研究テーマを決定する</p> <p>5～14 研究の進捗状況を報告する 個別に研究を進める</p> <p>15 レポート提出</p>		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	学年末に提出するレポートの内容（80パーセント）と出席点（20パーセント）で評価する。欠席多数の場合は、レポート提出を認めない。		
質問・相談の受付方法	講義開始前と講義終了後、講義内容、及び、研究方法、論文・レポートの書き方、文学、日本文化、日本語に関する質問・相談に応じる。		
履修要件	「日本語表現法」か「文学」か「教養講読⑥」を履修済みで、さらに、同じ教員の「教養研究A」を履修済みであることが望ましいが、自由に選択・履修しても構わない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	私語、遅刻等、人に迷惑を掛ける諸君の受講は認めない。		

科目名	教養研究B	開講時期	4年 後期
担当教員	向山 守	単位数	2
テーマ	村上春樹とともに批評する		
授業の概要と目的	<p>教養研究Bをうけて、より議論を深めて行きたい。基本的には、村上春樹のインタビュー集をもとに授業を進めていくが、他の文学理論書なども随時参考にしていくつもりである。</p> <p>最終的には、それなりの質と量を備えたエッセイを書くことを目的とする。</p>		
授業計画	<p>1. イントロダクション</p> <p>2.~14.</p> <p>テキストを読みながら、理解を深め、その理解に基づき、作品に関するコメントをそれぞれしてもらおう。そのコメントをもとに、ディスカッションを行う。</p> <p>15. まとめのディスカッション</p>		
テキスト	『夢を見るために毎朝僕は目覚めるのです』文藝春秋 1800円		
参考文献	随時紹介する。		
成績評価の基準・方法	出席+レポート 出席(60%)、レポート(40%)		
質問・相談の受付方法	研究室棟301 向山研究室まで。		
履修要件	<p>とくにないが、作品と批評(のようなもの)の両方を読むので、それなりの読書量が要求される。</p> <p>また、教養研究A(向山)を受講していない人でもかまわない。</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>		
その他			

科目名	キャリア支援Ⅰ（再履修クラス）	開講時期	1年 通年																										
担当教員	戸田裕司	単位数	2																										
テーマ	文章を書く 報告をまとめる																												
授業の概要と目的	<p>この授業では、身近な事から文章を書くことに親しみ、文章の技法を身につけることを第一の目標とする。そして、より社会的な広がりを持ったテーマや、他の人の意見を文書にまとめる力を養うことを目指す。さらに、興味ある問題について、資料や情報を検索してまとめ、報告する方法を学ぶ。</p> <p>文章・報告の作成に習熟することは、皆さんがより充実した大学生活を送り、ひいては良き社会人として生きていくための、基礎体力となるはずだ。</p>																												
授業計画	<p>下記のスケジュールにしたがって実施するが、より受講生の必要性に寄り添った教育内容にするため、時間配分等を変更することがある。</p> <p>《前期》</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>授業趣旨説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2~3</td> <td>文章作成のルールを知ろう</td> <td rowspan="3">漢字・漢語・ 故事成句演習</td> </tr> <tr> <td>4~8</td> <td>作文演習—身近な事を文章にする</td> </tr> <tr> <td>9~14</td> <td>要約演習(1)—新聞・本・他人の話などを要約する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>前期授業内容の補足とまとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>《後期》</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>前期授業内容確認 後期趣旨説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2~3</td> <td>復習：作文技法</td> <td rowspan="3">漢字・漢語・ 故事成句演習</td> </tr> <tr> <td>4~8</td> <td>要約演習(2)—新聞・本・他人の話などを要約する *</td> </tr> <tr> <td>9~14</td> <td>報告作成演習—資料・情報を集め報告する *</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業内容の補足とまとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>* この単元は、必要に応じて図書館等を利用して実施する場合がありますので、教室変更の連絡などに注意すること。</p>			1	授業趣旨説明		2~3	文章作成のルールを知ろう	漢字・漢語・ 故事成句演習	4~8	作文演習—身近な事を文章にする	9~14	要約演習(1)—新聞・本・他人の話などを要約する	15	前期授業内容の補足とまとめ		1	前期授業内容確認 後期趣旨説明		2~3	復習：作文技法	漢字・漢語・ 故事成句演習	4~8	要約演習(2)—新聞・本・他人の話などを要約する *	9~14	報告作成演習—資料・情報を集め報告する *	15	授業内容の補足とまとめ	
1	授業趣旨説明																												
2~3	文章作成のルールを知ろう	漢字・漢語・ 故事成句演習																											
4~8	作文演習—身近な事を文章にする																												
9~14	要約演習(1)—新聞・本・他人の話などを要約する																												
15	前期授業内容の補足とまとめ																												
1	前期授業内容確認 後期趣旨説明																												
2~3	復習：作文技法	漢字・漢語・ 故事成句演習																											
4~8	要約演習(2)—新聞・本・他人の話などを要約する *																												
9~14	報告作成演習—資料・情報を集め報告する *																												
15	授業内容の補足とまとめ																												
テキスト	指定しない（適宜プリントを配付する）																												
参考文献	授業中適宜紹介する																												
成績評価の基準・方法	<p>作文・小論文・報告の提出状況ならびに内容 [40%]</p> <p>授業への参加・貢献 [30%]</p> <p>学期末試験〔レポート提出〕 [30%]</p>																												
質問・相談の受付方法	<p>① オフィス・アワー等に研究室で受け付ける（研究室棟 1階 103号室）</p> <p>② 直接言いくければ、毎回の提出物(作文、レスポンス・カード等)に付記する。</p>																												
履修要件	2年生以上で「キャリア支援Ⅰ」が未履修の学生																												
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>																												
その他	<p>指定原稿用紙を購入しておくこと。昨年度と同じ様式なので、まだ残っているなら、それを持参すればよい。〔B5判・縦書き・200字詰（福祉創造館1階売店で販売している）〕</p>																												

科目名	キャリア支援IV-A	開講時期	4年 前期
担当教員	河合修身	単位数	1
テーマ	時事問題解説「今を読み解く」		
授業の概要と目的	<p>社会の一員として自立するためには社会の動きをしっかりと見詰め、それに対して自分なりの考えを持ち、行動することが重要。今、日本で、海外で、どんなことが起き、どんな問題になっているのか。それが自分たちの仕事に、生活にどのような影響をもたらすのか。時事問題を解説し、一緒に考えながら日本の今、世界の今を読み解いていく。</p> <p>また、社会人として知っておきたい最近話題になった基礎的時事用語の習得を目指す。</p>		
授業計画	<p>時事問題は世の動きにつれて刻々と変わる。その時点で最もホットな注目されている問題を取り上げるため、いつ、どんなテーマを取り上げるか確定はできない。基本的項目としては</p> <p>(政治) 国会・内閣、選挙、政党、地方自治、年金、沖縄の米軍基地  (経済・財政) 国・地方の予算・借金、消費税など税制、インフレ・デフレ、円高・円安など外国為替、企業倒産、景気判断・日銀短観、食糧自給率など食糧問題  (社会一般) 裁判員制度、事件発生・犯人逮捕から裁判までの流れ、検察審査会、地球温暖化など環境問題、改正臓器移植法、少子高齢化など人口問題、自殺者年3万人、文化勲章・文化功労章、ノーベル賞、芥川賞・直木賞、公営ギャンブル  (国際) 北方領土・竹島・尖閣諸島など領土問題、G8・G20などサミット、核軍縮、資源エネルギー問題、北朝鮮問題、米銃社会</p> <p>などを予定。</p> <p>世の中の動きを知るためには新聞を読み、テレビやラジオ、ネットのニュースを視聴することが必要。中でも新聞は情報の宝庫。新聞の読み方も取り上げる。</p>		
テキスト	指定しない。適宜、プリントを配布する。		
参考文献	講義中、適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	適宜提出してもらったレポートと受講態度（授業中の発言、出席状況など）で評価。レポート50、受講態度50		
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな問題を取り上げてほしいか。提案、希望、要望を歓迎する。</li> <li>・教員からの一方通行の授業ではつまらない。学生諸君からの積極的発言によるコラボレーションによって充実した授業になる。</li> <li>・新聞を読む習慣をつけたい。日本語の勉強や文章力をつける訓練にもなる。新聞は大学の図書館にすべてそろっている。</li> </ul>		

科目名	キャリア支援Ⅳ-B	開講時期	4年 後期
担当教員	河合修身	単位数	1
テーマ	時事問題解説「今を読み解く」		
授業の概要と目的	<p>社会の一員として自立するためには社会の動きをしっかりと見詰め、それに対して自分なりの考えを持ち、行動することが重要。今、日本で、海外で、どんなことが起き、どんな問題になっているのか。それが自分たちの仕事に、生活にどのような影響をもたらすのか。時事問題を解説し、一緒に考えながら日本の今、世界の今を読み解いていく。</p> <p>また、社会人として知っておきたい最近話題になった基礎的時事用語の習得を目指す。</p>		
授業計画	<p>時事問題は世の動きにつれて刻々と変わる。その時点で最もホットな注目されている問題を取り上げるため、いつ、どんなテーマを取り上げるか確定はできない。基本的項目としては</p> <p>(政治) 国会・内閣、選挙、政党、地方自治、年金、沖縄の米軍基地  (経済・財政) 国・地方の予算・借金、消費税など税制、インフレ・デフレ、円高・円安など外国為替、企業倒産、景気判断・日銀短観、食糧自給率など食糧問題  (社会一般) 裁判員制度、事件発生・犯人逮捕から裁判までの流れ、検察審査会、地球温暖化など環境問題、改正臓器移植法、少子高齢化など人口問題、自殺者年3万人、文化勲章・文化功労章、ノーベル賞、芥川賞・直木賞、公営ギャンブル  (国際) 北方領土・竹島・尖閣諸島など領土問題、G8・G20などサミット、核軍縮、資源エネルギー問題、北朝鮮問題、米銃社会などを予定。</p> <p>世の中の動きを知るためには新聞を読み、テレビやラジオ、ネットのニュースを視聴することが必要。中でも新聞は情報の宝庫。新聞の読み方も取り上げる。</p>		
テキスト	指定しない。適宜、プリントを配布する。		
参考文献	講義中、適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	適宜提出してもらったレポートと受講態度（授業中の発言、出席状況など）で評価。レポート50、受講態度50		
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな問題を取り上げてほしいか。提案、希望、要望を歓迎する。</li> <li>・教員からの一方通行の授業ではつまらない。学生諸君からの積極的発言によるコラボレーションによって充実した授業になる。</li> <li>・新聞を読む習慣をつけたい。日本語の勉強や文章力をつける訓練にもなる。新聞は大学の図書館にすべてそろっている。</li> </ul>		

科目名	情報リテラシーA (再履修クラス)	開講時期	1年 前期
担当教員	岡澤 裕子	単位数	2
テーマ	コンピュータおよびネットワークの利用スキルの基礎の習得		
授業の概要と目的	<p>学科・科目を問わず、在学時の学習や卒業後に必要とされるコンピュータおよびネットワークの利用の基本的な知識とスキルの習得を目的とする。</p> <p>主な学習内容は、コンピュータに関する基本的な知識と操作法、インターネットの利活用と情報モラル、ワードプロセッサによる文書作成、表計算入門などである。学習内容の理解を深めるために、毎回の授業で課題を課す。また、講義時間内に日本語ワードプロセッサ検定試験を受験する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PCの基本操作①－Windowsの基本操作と入力の基礎</li> <li>2. PCの基本操作②－PCの環境設定, タッチタイピング</li> <li>3. PCの基本操作③－インターネットの利用と情報モラル</li> <li>4. ～9. 日本語ワードプロセッサ入門 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の入力と変換, 装飾</li> <li>・ 文書の作成・編集と保存</li> <li>・ 図表の作成と編集</li> <li>・ テンプレートの活用</li> </ul> </li> <li>10. ～12. 表計算入門 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表の作成と編集</li> <li>・ グラフの作成と編集</li> <li>・ データの処理</li> </ul> </li> <li>13. ～15. 総合演習</li> </ol> <p>(いずれかの授業時間内に日本語ワードプロセッサ検定試験を受験します)</p>		
テキスト	『30時間でマスター Word&Excel 2003』実教出版 日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定試験模擬問題集		
参考文献			
成績評価の基準・方法	毎回の講義後に提出する課題と日本語ワープロ検定試験の結果で評価する。 (配分 40 : 60)		
質問・相談の受付方法	授業の開始時に各担当教員から伝える。		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	・ 毎時間必ずノートパソコンを持参すること。ノートパソコンを忘れた場合は欠席扱いとする。 ・ 授業を欠席した場合には、次回の講義までに授業内容を確認しておくこと。		

科目名	情報リテラシーB (再履修クラス)	開講時期	1年 後期
担当教員	岡澤 裕子	単位数	2
テーマ	表計算ソフトウェアを利用したデータの処理		
授業の概要と目的	表計算ソフトウェアの操作実習をしながら、データを数値化、分析、加工する方法を習得する。また、知識の総括として、講義時間内に日本情報処理検定協会 情報処理技能検定試験2級を受験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ入力の基礎</li> <li>2. 表の作成と編集</li> <li>3. 計算の基礎</li> <li>4. 書式設定</li> <li>5. }</li> <li>6. } グラフの作成と編集</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>9. } 関数の活用</li> <li>10. }</li> <li>11. データベース</li> <li>12. 情報処理技能検定試験</li> <li>13. }</li> <li>14. } 総合演習</li> <li>15. }</li> </ol>		
テキスト	『30時間でマスター Word&Excel 2003』実教出版 日本情報処理検定協会 情報処理技能検定試験模擬問題集		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	毎回の講義後に提出する課題と日本語ワープロ検定試験の結果で評価する。 (配分 40 : 60)		
質問・相談の受付方法	授業の開始時に各担当教員から伝える。		
履修要件	情報リテラシーの単位を修得済み、あるいは同等の能力を有すること。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間必ずノートパソコンを持参すること。ノートパソコンを忘れた場合は欠席扱いとする。</li> <li>・授業を欠席した場合には、次回の講義までに授業内容を確認しておくこと。</li> </ul>		

科目名	情報システム設計論A	開講時期	4年 前期
担当教員	平井利明	単位数	2
テーマ	情報システム開発の基礎を学ぶ		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>情報システムの開発は、情報社会において必要不可欠な仕事である。身近なシステムに図書館管理システムや大きなシステムでは鉄道や航空機の座席予約システムなどがある。このようなシステムがどのように開発され、運用されるのか、その開発過程とともにシステム開発に関連する事柄を学習する。</p> <p>(目的)</p> <p>情報システム開発の概要を理解する。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 情報システム開発とは。システム開発の技法</p> <p>第 2 回 システム開発の技法と開発コストモデル</p> <p>第 3 回 システム開発の準備と要件定義</p> <p>第 4 回 システムの要件定義と分析技法</p> <p>第 5 回 システムの分析技法</p> <p>第 6 回 システムの分析技法と設計技法</p> <p>第 7 回 外部設計①</p> <p>第 8 回 外部設計②</p> <p>第 9 回 外部設計③</p> <p>第 10 回 内部設計①</p> <p>第 11 回 内部設計②</p> <p>第 12 回 内部設計③</p> <p>第 13 回 プログラム設計</p> <p>第 14 回 テストとテスト技法、レビュー</p> <p>第 15 回 システムの運用と情報システム設計のまとめ</p>		
テキスト	「システム開発とその運用」実教出版		
参考文献	講義中適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	<p>試験および課題提出で評価します。</p> <p>無断欠席は1回につき7点の減点となります。</p>		
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、昼休み等204研究室</p> <p>メールは常時受け付け(学内ネットワーク)</p>		
履修要件	原則としてソフトウェア、コンピュータシステム等情報系の科目を履修した学生が対象となります。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>		
その他	情報システム系の企業へ就職する学生は履修しておくことで役立つでしょう。理解度に応じ講義の順序や内容が前後します。		

科目名	情報システム設計論B	開講時期	4年 後期
担当教員	平井利明	単位数	2
テーマ	情報システム開発の実践を学ぶ		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>情報システムの開発は、情報社会において必要不可欠な仕事である。身近なシステムに図書館管理システムや企業における販売在庫管理システムなどがある。大きなシステムでは鉄道や航空機の座席予約システムなどがある。本講義では、システム開発の手順にしたがい、簡単なシステム開発の理論と実際を学習する。</p> <p>(目的)</p> <p>情報システム開発の基礎と実践を理解する。</p>		
授業計画	<p>第 1回 情報システム開発の手順と人材</p> <p>第 2回 情報システム開発対象システムの立案</p> <p>第 3回 情報システム開発の基本計画の手順</p> <p>第 4回 現状調査と分析、要求定義書の作成</p> <p>第 5回 要求定義書の作成</p> <p>第 6回 外部設計①</p> <p>第 7回 外部設計②</p> <p>第 8回 外部設計③</p> <p>第 9回 外部設計④</p> <p>第10回 外部設計⑤</p> <p>第11回 内部設計①</p> <p>第12回 内部設計②</p> <p>第13回 内部設計③</p> <p>第14回 テスト技法①</p> <p>第15回 テストの実施と運用保守、まとめ</p>		
テキスト	「システム開発とその運用」実教出版		
参考文献	講義中適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	試験および課題提出で評価します。 無断欠席は1回につき7点の減点となります。		
質問・相談の受付方法	講義終了後、昼休み等 メールは常時受け付け（学内ネットワーク）		
履修要件	情報システム設計論を受講していることが前提です。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	情報システム系の企業へ就職を希望する学生は履修しておくことで役立つでしょう。		

